

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M211N202	保健統計学 (Statistics for Health Research)	専門教育科目 健康科学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	前	月・5	加隈哲也 内線：5033 E-mail：kakuma@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

医療統計学は、科学的でかつ客観的な看護研究において必須な知識である。医療従事者に必要とされる統計学の基本的な考え方について、演習を交えながら理解し、活用できることを目的とする。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 保健学における医療統計の必要性を理解し、その活用について説明できる。	○		○				
2. データの一次集計と基本的な検定について解説することができる。	○		○				
3. 解析データの情報から、科学的でかつ客観的な結論を導き出すことができる。	○		○			○	

【授業の内容】

1	イントロダクション、授業の進め方・医療統計のガイダンス
2	保健師国家試験からみる医療統計(1)
3	データと基本統計量(1)連続データ
4	データと基本統計量(2)カテゴリーデータ
5	統計的推測、仮設検定
6	統計におけるバイアスと医療統計の意義
7	種々の検定を理解する(1)
8	種々の検定を理解する(2)
9	保健医療領域における主な統計方法(1)相関
10	保健医療領域における主な統計方法(2)回帰分析
11	保健医療領域における主な統計方法(3)ロジスティック回帰分析
12	保健医療領域における主な統計方法(4)多変量解析
13	そのほかの統計学的手法
14	保健師国家試験からみる医療統計(2)
15	講義全体のまとめ

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	講義内での穴埋め資料、小テスト	教科書や資料を読み返して、どこに何が書かれているか理解することが大事。 インターネットで統計学の知識を得る。 また国家試験で問われている内容を重視する。
B：意見の表現・交換	○	講義内での質疑応答	
C：応用志向	○	ケースメソッド	
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	Moodle 上のスライドで次回の学習内容について予習する、インターネットで関連内容の検索も推奨(22.5h)。
事後学修	スライド資料や参考書を用いて授業で学習した内容を復習する(22.5h)。

【教科書】 特に指定しない

【参考書】 吉田寛輝(著)：「いちばんやさしい医療統計」、アトムス、2019。牧本清子(著)：「疫学・保健統計学 第3版」、医学書院、2015

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3
穴埋め資料、随時小テスト	20%	○	○	○
期末試験	80%	○	○	○

【注意事項】

【備考】 Moodle 上の資料をプリントアウトするか、パソコン上で閲覧できる状態で授業に参加するのが望ましい。

担当教員の実務経験の有無	無	
教員の实務経験	統計学者としての実務経験はないが、医師としての医学研究では、統計学的手法を使用し論文を執筆する	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無		
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	医療統計学的手法を用いた自身の論文を引用・解説することで、保健統計学の実践を表現できるようにしている	
授業形態	対面授業	